

札幌東徳洲会病院「整形外科外傷センター」通信

2020年4月1日

2019年4月、重度四肢外傷をはじめとして、運動器外傷患者の早期社会復帰を目指すべく、ここ札幌東徳洲会病院に「整形外科外傷センター」を再開設し、早1年が経過しました。
この1年間、救急隊から、そして近隣あるいは遠方の病院から、患者さんをご紹介いただきました。関係諸氏に深謝致します。
新しい年度を迎え、新しい仲間を迎え、ますます活動を活発化しようとしていた矢先ですが、不幸にも「COVID-19」が蔓延しています。いつしか収まり日常を取り戻すまで、これまで同様、肅々と外傷治療を続けていきたいと思っております。



土田芳彦(センター長)

1988年 北海道大学卒業

日本整形外科学会専門医、日本救急医学会専門医、日本手外科学会専門医、日本外傷学会専門医、日本マイクロサージャリー学会評議員、日本骨折治療学会評議員、AO Trauma Japan 副理事長(教育委員長)



Contents

- 整形外科外傷センターの1年を振り返る
- センター医師紹介
- 専用手術室紹介
- 5B階病棟紹介
- 専用手術室紹介
- 運動器リハビリテーション科
- 湘南鎌倉総合病院との連携
- 四肢の外傷に広く対応します
- 依頼方法

整形外科外傷センターの1年を振り返る

2019年4月1日から2020年3月末日まで、961例の外傷患者さんを治療させていただきました。
主な内訳として、骨盤外傷16例、寛骨臼骨折10例、切断指23例、重度手部外傷15例、重度四肢開放骨折(陳旧例を含む)16例、小児外傷66例などです。
「週末」「Golden week」「年末年始」の紹介が多いことが当センターの特徴であり、土曜日の手術件数は203例(50日間)、Golden weekは33例(6日間)、年末年始は22例(12月31日~1月3日)でした。
また、札幌以外の遠方紹介患者さんは52名でした。
当センターの役割の一つは、市中病院で「対応しづらい内容の患者さん」や「対応しづらい時間帯の患者さん」を受け入れることです。
それを可能にしているのは、①四肢外傷への特化、②豊富な医師数(現在8名)、③専用手術室体制、④専属麻酔科医、⑤専用病棟、リハビリテーションなどなどです。

<p>村上裕子(副センター長、部長) 1989年 札幌医大卒業 日本整形外科学会専門医</p>  <p>整形外科医になって30年、この10年は整形外科外傷専門に働いています。外傷治療は興味深く勉強の毎日です。</p>	<p>原敬(医長) 2006年 香川医大卒業 日本整形外科学会専門医</p>  <p>怪我された患者さんが、良い状態で日常生活に戻れるように、お手伝いできたらと思います。</p>	<p>佐藤和生(医長) 2007年 旭川医大卒業 日本整形外科学会専門医 プライマリケア連合学会認定医・指導医</p>  <p>愛され続けて1周年。どうもありがとうございます。</p>	
<p>大野晋太郎(医長) 2008年 防衛医大卒業、 日本整形外科学会専門医</p>  <p>一環した四肢外傷治療を行うべく4月から赴任しました。北海道はほぼ初めてで、寒さにびっくりしています。</p>	<p>佐藤亮(医長) 2009年 札幌医大卒業 日本整形外科学会専門医</p>  <p>外傷医療の難しさを実感しながらも、日々研鑽しています。</p>	<p>伊澤雄太(医師) 2014年 北海道大学卒業 JATEC インストラクター</p>  <p>好きな言葉は「ハードワーク」。皆様に満足していただける様、日々精進いたします。</p>	
<p>西田善郎(医師) 2014年 弘前大卒業</p>  <p>大学病院ではできないスピード感溢れる充実の外傷治療研修に精進します。</p>	<h3>専属麻酔科医</h3>		
	<p>小松徹 麻酔部門長</p> 	<p>三澤学 部長</p> 	<p>仙石和文 部長</p> 
	<p>”外傷は短時間の間に劇的に生体の身体的、精神的機能ばかりでなく人権も侵害する全人的傷害です。最も侵襲的な外傷医療から人権を守り、快適な周術期を過ごしながら、身体的、精神的機能回復、社会的回復を早期に実現する、手術麻酔と周術期医療を目指しています。”(小松徹)</p>		



第7手術室 第8手術室 第9手術室 リハビリルーム

専用手術室紹介

病院4階の中央手術室に10室ありますが、そのうち3室を使用して朝9時から外傷手術に対応しています。またリカバリールームを整備し、早い入れ替えを実現し、遅滞の臨時手術を可能にしています。

専属手術室看護師



外傷整形外科専用の手術室があり、専属の看護師がいることで一人一人プロ意識があり専用性高いチーム医療を患者さんに提供できます！

(竹内謙哉)

外傷病棟紹介



運動器外傷患者さんのケアとして5階B病棟に32床、7階病棟に18床の計50床を使用し、平均在院日数11.2日で運用しています。

運動器リハビリテーション科



理学療法士の面々



ハンドセラピスト

運動器外傷リハを担当するのは、ハンドセラピスト3人、理学療法士6人です。毎日のカンファレンスで、問題事例を提示し医師と検討しています。

湘南鎌倉総合病院との連携



Workplaceでの症例討論 鎌倉／札幌間webカンファ(毎朝7時～)

「札幌東徳洲会整形外科外傷センター」と「湘南鎌倉総合病院外傷センター」は姉妹センターであり、土田芳彦センター長は、月曜～水曜は「湘南鎌倉総合病院外傷センター」で、木曜～土曜は「札幌東徳洲会整形外科外傷センター」で勤務しています。

症例の全てはスライドにまとめられ、院内専用のWorkplaceを使用して手術前・後およびフォロー時の討論を行っています。

また、毎週月曜日から土曜日までの朝7時から、Web systemを使用して、術前、術後カンファレンスを両病院間で開催しています。

各スタッフはセンター長の辛辣な批評に耐えて、日々の診療に従事しています。

四肢の外傷に広く対応します



当センターは次のような四肢外傷に広く対応しています

- 切断肢や切断指、血管損傷、神経損傷、開放骨折、軟部組織欠損などの重篤な四肢外傷に対して、マイクロサージャリーを用いた治療を行い、早期に再建します
- 骨盤、寛骨臼骨折に対して解剖学的に修復し、早期社会復帰を目指します
- その他、手部外傷や小児骨折、高齢者骨折など全ての四肢外傷を専門的に治療します
- 骨髄炎などの感染症、変形治癒、偽関節などに適切に対処します。

依頼方法

当センターは時間外、週末、休日など、全て対応しています。

急を要する患者さんは「外傷患者の依頼」とお伝えください。救急センターか外傷センター医師が対応いたします

TEL 011-722-1110(代表)

急を要さない患者さんは地域連携室。

TEL 011-722-1117(直通)

札幌東徳洲会病院のHP内に「外傷センター長通信」を新設することにしました。私たちの「整形外科外傷センターの活動」を少しでも知ってほしいとの気持ちからです。毎週月曜日に更新する予定ですので、よろしければご覧下さい。

<https://www.higashi-tokushukai.or.jp/index.html>